

令和4年度

大阪府立寝屋川高等学校

学校教育自己診断

結果と分析

実施日 令和4年12月

ホームルーム・Google Form で実施

実施対象 生徒 912/990 (92.1%)

保護者 646/990 (65.3%)

教職員 52/61 (85.2%)

生徒編

質問全 16 項目のうち「①そう思う、②どちらかと言えばそう思う」と肯定的に回答した生徒が 80%を超えた項目は、今年度は 14 項目 (R3 は 14 項目、R 元は 14 項目)、90%を超えた項目について、今年度は 9 項目 (R3 は 7 項目、R2 は 5 項目) だった。すべての項目の平均値は 3.33 (R3 は 3.28、R2 は 3.23)、全ての項目の平均値は向上しているとともに、過去 7 年間で最高の結果となった。

- 「自分は部活動に意欲的に参加していて、成長していると思う」「自分は学園祭や体育大会など学校行事に積極的で、楽しく参加している」の項目で肯定的な評価が約 90%の高評価になっている。コロナ禍で学校生活でも制限がまだまだ続く中で学習以外での面でも一生懸命に取り組み、文武両道をめざしている姿がうかがえる。
- 「教育方針や教育計画を分かりやすく示している」が R3 は 87.6%、R2 は 83.1%だったが今年度は 87.4%になり、学力向上委員会の主導で教員が学習における目標設定について協議し、ここ数年で研究授業が定着し教授法なども教員間で共有できていることが評価につながっていると考えられる。今後、オンライン授業のさらなる充実や補助教材等の導入等も含め、進路部、学力向上委員会が学年と連携してさらなる改善を進めていくことが必要である。
- 「授業で自分の考えをまとめたり、発表したりする機会がある」については 92.8%の生徒が肯定的に答えている。(R3 は 88.0%、R2 は 84.9%) また、特に肯定的に答えた生徒が 57.0% (R3 42.1% R2 33.7%) とここ数年大きく向上している。生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、教員間でのスキルや授業展開の方法が共有されていると考えられる。
- 「自分で計画を立て、家庭学習する時間の確保」の項目が 75.1%の生徒が肯定的に答えており、75%を超えたのは過去 7 年間で初めてである。(R3 73.5% R2 72.4%) これまで家庭学習時間については多くの課題がある現状であったが、少しずつ改善されている。これはスタディサプリをはじめとする、進路部が主導となり生徒への学習面での指導の結果だと考えられる。
- 「学校で命の大切さや、人権について学ぶことがある」の項目は 81.3%の生徒が肯定的に答えており、過去 3 年間継続して低下した。(R3 が 87.5% R2 90.1%) コロナ前に実施できていた人権講演ができなかった影響もあると思うが、内容の精査が必要である。
- 「自分は寝屋川高校生であることを誇りに思う」の項目は 86.7%の生徒が肯定的に答えている。(R3 87.5% R2 81.3%) コロナ禍において生徒への細やかな対応や行事での経験が自己肯定感を高めることにつながっていると考える。
- 「学校生活は満足していて、入学してよかった」の項目は 94.5%の生徒が肯定的に答えている。(R3 93.1% R2 92.0%) ほぼすべての生徒が寝屋川高校での生活に満足しており、学校の取り組みを理解、評価してくれていると考えられる。

生徒		令和4年度		令和3年度	
		割合	数値	割合	数値
合計	①	47.4%	3.333	44.4%	3.287
	②	41.2%		43.2%	
学校生活は満足していて、 入学してよかったと思っている。	①	60.0%	3.531	56.8%	3.482
	②	34.5%		36.3%	
学校は教育方針や教育計画を わかりやすく示している。	①	34.4%	3.191	32.0%	3.170
	②	53.0%		55.6%	
学校は授業以外の講習や補習など、 学力向上のための場を設定している。	①	53.4%	3.466	53.5%	3.440
	②	41.0%		38.4%	
学校は将来の生き方や進路選択について 相談する機会を設けている。	①	48.0%	3.386	40.9%	3.273
	②	44.0%		47.6%	
学校で命の大切さや、人権について 学ぶことがある。	①	36.5%	3.151	41.5%	3.265
	②	45.8%		46.0%	
学校は生徒の健康の保持増進や 安全対策に取り組んでいる。	①	33.0%	3.168	35.2%	3.179
	②	50.7%		50.7%	
学校には、 悩みを相談できる人や場所がある。	①	46.4%	3.318	36.5%	3.153
	②	40.3%		46.9%	
先生は生徒のことを 真剣に考えてくれ、信頼している。	①	50.4%	3.413	43.8%	3.333
	②	42.1%		47.7%	
先生は、教え方を工夫して よく分かる授業をしてくれる。	①	42.5%	3.332	38.6%	3.273
	②	50.2%		52.2%	
授業で自分の考えをまとめたり、 発表したりする機会がある。	①	57.0%	3.512	42.1%	3.273
	②	35.8%		45.9%	
自分で計画を立て、 家庭で学習する時間を待つように努力している。	①	33.7%	3.009	32.4%	2.985
	②	41.4%		41.1%	
自分のスケジュールを管理し、 学校行事や部活動と学習の両立ができています。	①	30.4%	2.955	26.3%	2.899
	②	41.6%		44.3%	
自分は部活動に意欲的に参加していて、 成長していると思う。	①	63.8%	3.547	61.7%	3.509
	②	29.1%		30.0%	
自分は学園祭や体育大会など 学校行事に積極的に、楽しく参加している。	①	65.7%	3.588	61.3%	3.508
	②	29.2%		31.0%	
自分はマスク着用、手洗いなどのコロナウイルス感染予防を 意識して行動がとれている。	①	61.1%	3.544	65.7%	3.616
	②	33.7%		31.2%	
自分は寝屋川高校生であることを誇りに思う。	①	42.3%	3.242	43.0%	3.260
	②	44.4%		44.5%	

数値は回答の①4点②3点③2点④1点としての平均。数値が大きいほうが評価は大きい。

保 護 者 編

全 15 項目のうち「①そう思う②どちらかと言えばそう思う」と肯定的に回答した保護者が 80% を超えた項目は、11 項目 (R3 は 10 項目、R2 は 9 項目) であった。「学校は子どもの健康や安全に十分に配慮している」の項目でわずかながらポイントを下げた。すべての項目の平均値 3.14 (R3 は 3.10% R2 は 3.06) は向上しており、特に令和 2 年度のコロナ初年度からすべての平均は向上しておりコロナ前の状況まで回復したと言える。

- 最重要事項である「入学させてよかったと満足している」という項目では、強い肯定が 58.6%(R3 は 55.2%、R 元は 52.4%)、「先生は子どものことを真剣に考えてくれるので信頼している」の項目では強い肯定が 42.9% (R3 は 41.3% R2 は 35.3%) であり数値は向上しているがこれからも今まで積み上げてきた改善や教職員一丸となった指導を粘り強く続けていく必要がある。
- 「学校の学習指導によって、学力が向上し満足している」については 22.7% (R3 は 22.5%)、「学校は授業以外でも学力増進のための教育活動に取り組んでいる」は 23.8% (R3 は 21.1%) と向上しているものの楽観できない結果である。生徒編にもあったように進路部、学力向上委員会を中心に学年と連携しつつ、補助教材の導入も含めて向上する手立てをおこなう。
- 保護者、生徒共に学校行事や部活動など積極的に参加することについて、肯定度は高いが、「学校は保護者の願いや期待に応えようと努力している」の肯定が 90.1%で昨年とほぼ同等の割合であった。昨年度の分析で、「90%に届いていないことを重く受け止め、引き続き生徒一人ひとりの自己実現を大切にする取り組みを進めていきたい。」と明記し、今年度は何とか 90%を超える結果となった。日頃の教員の生徒や保護者との信頼関係を作り取り組んできた教育活動の結果と考えられる。
- もっとも大きく減少したのが「学校は子どもの様子を実際に見る機会を設けている」の項目。強い肯定が 35.3% (R3 は 20.8% R2 は 27.1%) であり、大きく回復しているが、コロナ禍前の状況 (強い肯定 40%程度) までは評価されていない。引き続き感染症対策を継続しつつ、可能な限り機会の設定を検討する。もしくは Web 上での発信の機関を設けるよう対応する。
- 「施設設備の面で、学校の学習環境は整備されている」の項目は否定が 61.9% (R3 56.2% R2 56.7%) であり、半数以上の保護者が建物の老朽化などに不満を感じて数多く指摘を受けている。建て替えの決定が決まり、体育館のエアコンの設置も行われるので今後回復が見込まれるが、建て替え工事期間も含めて生徒の活動を保障できるように配慮していきたい。

保護者		令和4年度		令和3年度	
		割合	数値	割合	数値
合計	①	35.2%	3.143	33.0%	3.099
	②	47.5%		47.9%	
学校は保護者の願いや期待に 応えようと努力している。	①	35.9%	3.247	36.9%	3.241
	②	54.2%		52.3%	
学校は教育方針や教育活動を 丁寧に発信している。	①	31.6%	3.170	31.4%	3.149
	②	54.7%		53.4%	
学校は豊かな人間力を 育もうと取り組んでいる。	①	32.2%	3.210	32.6%	3.192
	②	57.5%		55.8%	
学校は子どもの様子を 実際に見る機会を設けている。	①	35.3%	3.162	20.8%	2.775
	②	48.0%		43.4%	
学校の生徒指導について、 理解し共感している。	①	32.3%	3.166	32.0%	3.155
	②	54.2%		53.5%	
学校の学習指導によって、 学力が向上し満足している。	①	22.7%	2.835	22.5%	2.834
	②	44.7%		45.7%	
学校の進路指導は豊富な 情報提供など丁寧に指導している。	①	26.7%	3.028	26.4%	2.994
	②	52.1%		50.2%	
学校は子どもの健康や安全に 十分に配慮している。	①	31.1%	3.175	34.2%	3.204
	②	57.3%		53.4%	
学校は授業以外でも 学力増進のための教育活動に取り組んでいる。	①	23.8%	2.920	21.1%	2.914
	②	48.3%		52.2%	
先生は子供のことを 真剣に考えてくれるので信頼している。	①	42.9%	3.312	41.3%	3.308
	②	47.0%		49.0%	
先生は保護者の相談に 丁寧に応じている。	①	41.1%	3.306	37.8%	3.268
	②	49.8%		52.4%	
部活動に参加することで 子どもは成長したと感じている。	①	61.0%	3.537	57.2%	3.503
	②	33.5%		37.1%	
学園祭や体育大会など 学校行事は充実している。	①	46.4%	3.366	36.8%	3.196
	②	45.3%		48.0%	
施設設備の面で、 学校の学習環境は整備されている。	①	9.4%	2.245	12.4%	2.344
	②	28.8%		31.4%	
入学させて良かったと満足している。	①	58.6%	3.516	55.2%	3.473
	②	35.7%		38.4%	

数値は回答の①4点②3点③2点④1点としての平均。数値が大きいほうが評価は大きい。

教 職 員 編

全 15 項目で肯定的な回答が 80%を上回ったのは 13 項目 (R3 は 6 項目 R2 は 5 項目) で昨年より 6 項目増えた。また、すべての項目の平均値は 3.18 (R3 は 2.95 R2 は 2.92) で昨年度を上回り、過去 7 年間で最高の結果となった。

R 元から 4 年連続で向上している「教授法や教材研究など自己研鑽の時間や生徒と向き合う時間が確保できている」は授業力向上の研修などの結果であると思われる。

- 「学校の教育相談体制は十分に機能している」「学校の人権教育は十分に機能している」ともにやや向上した。人権教育推進委員会を設置し、一定の理解を深めつつあるが、84.6% (R3 72.3% R2 78.7%) で数値は向上している。また教育相談体制は強い肯定は 32.7% (R3 は 16.7%) と昨年度と比較して大きく向上した。生徒支援会議が機能し生徒への寄り添いを感じる機会が増えたことが理由になると考えられる。さらに生徒に寄り添いながら、生徒の観察及び指導が組織として徹底されるように改善点を探したい。
- 「指導内容や指導方法の工夫・改善に努めている」については、96.1% (R3 は 94.4%) と高い数字となっている。授業力向上委員会の引き続き授業研究の取り組みを進めていく。
- 一方で、「学校は生徒の学力伸長や進路実現のために一体となって取り組んでいる」については強い肯定が 32.7% (R3 は 13.9%)。昨年より約 20%程度向上している。「③どちらかといえばそう思わない④そうは思わない」が 13.4% (R3 は 33.3%) となっており、学校全体の一体感を感じている教員が多くいることがわかる。進路部の主導の進路指導がより機能してきた結果だと思われる。
- 「学校は生徒の健康や安全に十分配慮している」は 94.2% (R3 は 91.7%) と高い評価となっていて 3 年連続 90%を超えた。とくにコロナでの生徒への働きかけが影響しているかも知れないが、今後継続し徹底していくにはどうすべきかが課題となっている。
- 「学校において各教科において学習指導計画や評価について十分な議論がなされている」では 90.4% (R3 は 88.9% R2 は 83.3%) と 90%以上の数値になった。これは 1 年生で観点別評価が始まり、定期考査の自動採点ツールの活用など各教科で議論する時間が増えた結果だと思われる。観点別評価もまだまだ試行錯誤の段階であり、教科内で時間をなんとか見つけて情報共有するべく取り組んでいきたい。
- 「学校の教育目標が共有され、全員で協働して、組織的に教育活動に取り組んでいる」では否定が 9.6% (R3 は 36%)。「学校は生徒の学力伸長や進路実現のために一体となって取り組んでいる。」では否定が 13.4% (R3 は 33.3%) になっている。職員室の配置を変えことなどもあり組織としての一体感が生まれることも影響して、チームとして機能し始めた結果と思われる。

教 員		令和4年度		令和3年度	
		割合	数値	割合	数値
合計	①	46.1%	3.185	22.7%	2.951
	②	78.0%		54.3%	
学校の教育目標が共有され、全員で協働して、 組織的に教育活動に取り組んでいる。	①	13.5%	3.019	11.0%	2.694
	②	76.9%		52.8%	
学校にはPDCAサイクルに沿った 改善思考が浸透している。	①	13.5%	2.808	11.0%	2.611
	②	57.7%		47.2%	
学校は生徒の学力伸長や進路実現のために 一体となって取り組んでいる。	①	32.7%	3.173	13.9%	2.722
	②	53.8%		52.8%	
学校は生徒の健康や安全に十分配慮している。	①	42.3%	3.346	36.1%	3.278
	②	51.9%		55.6%	
学校は新たな課題や生徒の実態に対して 適切に対応している。	①	21.2%	3.019	16.7%	2.917
	②	63.5%		58.3%	
学校の特別活動や部活動は人間力を 育成する上で大きな意味がある。	①	55.8%	3.558	63.9%	3.468
	②	44.2%		33.3%	
学校の教育相談体制は十分に機能している。	①	32.7%	3.154	16.7%	2.889
	②	51.9%		55.6%	
学校の人権教育体制は十分に機能している。	①	28.8%	3.077	11.1%	2.806
	②	55.8%		63.9%	
学校は特色や教育活動を保護者や社会に 発信するように努めている。	①	30.8%	3.173	25.0%	3.056
	②	55.7%		55.6%	
各教科において学習指導計画や評価について 十分な議論がなされている。	①	32.7%	3.231	27.8%	3.167
	②	57.7%		61.1%	
自分は指導内容・方法など工夫・改善をおこない、 生徒の意欲喚起に努めている。	①	44.2%	3.404	47.2%	3.417
	②	51.9%		47.2%	
教授法や教材研究など自己研鑽の時間や 生徒と向き合う時間が確保できている。	①	17.3%	2.904	22.2%	2.750
	②	55.8%		38.9%	
校長は教職員が気持ちよく教育活動に 取り組めるように学校経営に努めている。	①	50.0%	3.385	19.4%	2.722
	②	40.4%		50.0%	
校長はめざす学校像を実現するために リーダーシップを発揮している。	①	42.3%	3.288	11.1%	2.694
	②	46.2%		58.3%	
総合的に見て、寝屋川高校は 高い教育力を発揮している。	①	30.8%	3.231	13.9%	2.917
	②	61.5%		69.4%	

数値は回答の①4点②3点③2点④1点としての平均。数値が大きいほうが評価は大きい。